

# 「寄り道」できる場に

## 知的障害者の帰宅前支援



カップ麺の作り方を確認する2人(両端)と職員(中央)の浅岡さん

### 藤沢育成会 (神奈川県)

障害者支援施設などを運営する社会福祉法人藤沢育成会(石川修理 理事長、神奈川県藤沢市)は今年度、昼間働いた知的障害者が帰宅前に立ち寄れる居場所を設けた。「サラリーマンがアフターファイブ」を楽しむのと同じ

ように「がコンセプト。買い物や調理など一人ひとりが望むことに職員が寄り添う。「将来の1人暮らしに備えて包丁の使い方や学んでおきたい」「お湯に顔を近づけ過ぎないようにね」。9月末の夕方、仕事を

終えたリュウさん(22)、シユウさん(23)が職員の浅岡健さんとカップラーメン作りに初めて挑んだ。ネギとキャベツを切り、湯煎してカップ麺に加える。そんな「調理実習」の場となったのは生活介護事業所「湘南ジョイフル」。昼間は自宅などから通う障害者が創作活動などをする福祉施設だ。それが終わった午後4時から始まるのが藤沢市の「日中一時支援

事業(夕方支援型)」。だ。リュウさん、シユウさんはいずれも自宅暮らし。昼間は別の事業所で働くが、藤沢育成会の短期入所の利用で知り合った。意気投合した2人は週に1回程度、夕方の1時間超をこの事業の利用者として湘南ジョイフルで過ごす。それぞれスマートフォンで好きな動画サイトを視聴したり、歌に合わせて一緒に踊ったりすることもある。

この事業は自宅で暮らす障害者の親が、仕事などに専念できるように支えるレスパイト(休息)サービスだ。しかし、藤沢育成会はこの事業を障害者本人の視点で捉え直し、「お仕事の後の時間を楽しみませんか?」と呼び掛ける。今年度からの法人の5カ年計画「インクルージョンプラン」にもこの事業を位置付けた。とかく障害者の交友範囲は作業所で出会う人などに限られがちだが、石川理事長はそれを「当たり前」と思わないよう職員に呼び掛け、「暮らし方は一人ひとり違って当然だ。『それぞれのマイライフ』を合言葉に取り組みを進めたい」としている。(福田敏克)